

YNU研究イノベーション・シンポジウム 2017開催報告

“本気の産学連携”を構築する新たな取り組み

研究推進機構 産学官連携推進部門長 金子 直哉

昨年11月28日にYNU研究イノベーション・シンポジウムを開催しました。今年度から導入した全学的シンポジウムで、神奈川県に研究拠点を有する企業等との連携強化を目的としています。会場のランドマークホールには産学官から約180名の参加があり、この中で“本気の産学連携”を構築するための「横浜国立大学の戦略」を説明し、その土台となる「横浜国立大学の強み」を示しました。

取り上げたテーマは、Society5.0という未来ビジョン。実世界とサイバー空間をつなぐCPS（サイバーフィジカルシステムズ）を駆使することで、社会に新たな価値を生み出そうという試みです。シンポジウムでは、最初にSociety5.0を実現する戦略として、「“企業のモノ”をサービスに換える」という方向を提示しました。ICT（情報通信&コミュニケーション）、人工知能、ロボットを中核とするCPSを活用することで、あらゆる“モノ”がサービス化され、新たな産業が生まれてくるシナリオです。その上で、土台となる本学の強みとして4つの研究拠点を紹介しています。

第一が、ICTの「YNU情報・物理セキュリティ研究拠点」。拠点長の松本勉教授より、本学の強みとして「ソフトとハード、実世界とサイバー空間をつなぐ“情報・物理セキュリティ”」が示されました。第二が、人工知能の「YNU人工知能研究拠点」。拠点長の長尾智晴教授より、本学の強みとして「機械学習や解法そのものを進化的に自動構築する次世代の人工知能“進化的機械学習”」が示されています。第三が、ロボットの「YNUロボティクス・メカトロニクス研究拠点」。拠点長の藤本康孝教授より、「製造現場や暮らしの場で共存するための“人に優しいロボティクス”」が本学の強みとして紹介されました。加えて第四の強みとなるのが、イノベーションの「YNU文理連携による社会価値実現プロセス研究拠点」。拠点長の真鍋誠司教授より、本学の強みとして「実際の技術を社会的な価値として実現していくプロセスの研究」が示されています。

その後、これらの強みに基づく連携構築の具体策を議論した後半のパネルディスカッションでは、会場からいくつもの意見が出され、参加者へのアンケートを通じ60名の方から「実際に連携を検討したい」旨の回答を得ることができました。これらの回答の受け、現在、連携具体化に向けた取り組みを行っているところです。本シンポジウムは今後も毎年開催する計画であり、YNU研究イノベーション・シンポジウム2018に向けた準備を進めております。

